

そして、組織づくりにチャレンジ！

今振り返れば“失敗”が多かった

組織化にあたって、学んだこと

1 できる分野から無理をしないで。

タテ意識の強い団体は特にゆっくりと

2 団体をヨコ繋ぎにするには、連携事業をやるが近道

一つの団体ではできないものに取り組んでメリットを感じる。

3 NPOや大学の知識や知恵で視野が広がる。

自ら教えを乞うことで、新しい活動の地平が見える。

ゆっくり急がず、カメの歩みで、石の上にも三年

泉川まちづくり協議会設立総会は、平成22年4月
規約が出来たのは、平成24年4月

まちづくり協議会運営の基本スタンスは・・・

既存組織は残し、緩やかな繋がり

- これまでの団体は存続し、ネットワークのメリットを引き出します。

補完性の原則でまずは自分達から始める

- 自助・共助・公助の線引きを見極める。

権限委譲と責任分担を明らかにする

- 各部会が企画立案した事業をもとに、予算獲得合戦を行う。

新しい人材、若い世代を積極登用する

- 新規事業を組み込むことで新たな人材が活躍できる場をつくる。

公民館とまちづくり協議会の関係

地域をより良いものにしていこうとする活動は全て公民館活動



従って、まちづくり協議会の活動はすべて公民館活動

公民館は
まちづくり協議会の
総合事務局

主役は地域住民、公民館は支援の立場

そうは言っても

まだ公民館に仕事を持ってきて、預ける人も...

泉川の財源確保の手法

大好き泉川まちづくり寄付金

補助金打切り後の、自治会費の値上げと寄付金集めの二者択一の結果できた制度 金の切れ目が、事業の切れ目にはさせないという気概を示す。

寄付金制度の概要

地域内の事業所を自治会長が訪ね、地域づくりの必要性を説明し、趣旨に賛同してくれた事業所から一口3,000円で寄付を募る。



新居浜市からの予算配分とほぼ同額の100万余りの浄財が集まる

寄付金を原資に、まちづくり協議会の各部会が事業を企画立案し、自治会長へのプレゼンテーションで予算配分する。

活動内容は、年2回のまちづくり新聞により、住民に情報提供

まちづくり協議会の会議運営

状況に応じて、変革を恐れないことが大事なことを学んだ。

最初の運営方法は

★各部会毎に分散開催

日程は不規則、公民館の予約も手間がかかる。部員も日程を忘れることが多かった。

公民館職員の負担が大きい。

★連絡調整会がない。

総務部会はなく、月末に行われる自治会ブロック長会が兼ねる。

タイムラグが発生し、情報共有に支障あり。



現在の運営方法は

★全部会を合同開催

毎月12日に、公民館を全館貸切って全部会が集る。場合によっては部会を柔軟に繋げる。

公民館職員は調整・集約の立場



★総務部会を設置

総務部会は、自治会ブロック長と各部会長が参加し、情報共有、連絡調整を担う。

14日に総務部会を開き月末にはブロック会で情報交換する。

安全安心部会

まちづくりの第一要素は、安心して暮らすことができることです。
安全安心部会では、子どもから高齢者まで、安全と安心が確保できるよう事業に取り組めます。従来から、タテ割りの組織で動いていたので、なかなか連携することへのハードルが高かった領域です。消防団との連携で行う防災訓練は定着しました。



見守り隊と一緒に遠足



全児童が取り組む安全マップ

環境美化部会

泉川地域では、18年前から花いっぱい運動に取り組んできた歴史があります。地域を横断する国道11号バイパスの道路の里親、生ごみの減量と堆肥づくり、公園の環境美化活動など、目に見える活動ゆえに、毎年拡大しています。組織づくりは容易にスタートしましたが、地域住民への浸透はまだまだで、まずは実績を重ねることが大事です。



バイパス中央分離帯への植樹



子どもと一緒に樹木剪定

地域福祉部会

社会福祉協議会という組織は、高齢者をはじめ社会的弱者を地域みんなで支えるために全住民が参加する組織であったはずですが、この地域福祉部会が担う領域はそれに重なるものです。福祉系の団体とコミュニティ系の団体の関係はなかなか一本化は難しかったのですが、いくつかの事業を協力して開催していく過程を通じて、徐々に絆が強くなってきました。そこには、子ども達がかすがいいになっています。



年輪のつどい(喜寿のお祝い)



感謝祭(金婚式を子ども達が祝う)

健康づくり部会

健康づくりは、スポーツによって健康増進をはかる社会体育振興と食育によって健康な身体をつくる食生活改善の二つの柱で活動に取り組んでいます。自分達で作って、振付も行った『泉川健康体操』は子どもから高齢者まで幅広く親しまれています。泉川校区の諸会合は、始めに体操をして頭と体をリフレッシュさせてスタートします。



親子で健康料理教室



スマイルボウリングで健康づくり

子ども支援部会

泉川校区でも、子ども達との取組みに以前から取組んできました。放課後子ども教室(大好き泉川っ子教室)は8年目を迎え、卒業生は高校に通っています。また、学校支援地域本部事業にも積極的で、特に環境整備分野では地域の様々な職業の方が損得を越えて学校のために尽力してくれます。子ども達は地域の宝であり、地域の立派な構成員であるという考え方で、子ども達をお客さん扱いせず、一緒に汗を流します。



国立室戸青少年自然の家の体験活動



放課後子ども教室 大好き泉川っ子農園で収穫